

一九五四年十月十五日
印刷
發行



第37卷 第6号

史学・地理学・考古学

散所 その發生と展開……………林屋辰三郎(1)
——古代末期の基本的課題——

蒙古朝治下における漢人世侯……………井ノ崎隆興(27)
——河朔地区と山東地区の二つの型——

いわゆる印紙条例一揆について(下)……………今津晃(49)
——社会運動としてのアメリカ革命を主要な観点として——

鐘より見たる近世中国山村の社会経済構動……………庄司久孝(81)
——石見国波佐村庄屋文書を中心として——

書評と紹介

吉田敬市：朝鮮水産開發史……………河野通博(100)

西岡虎之助：日本文学における生活史の研究……………黒田俊雄(103)

村瀬興雄：ドイツ現代史……………岡部健彦(107)

学界消息

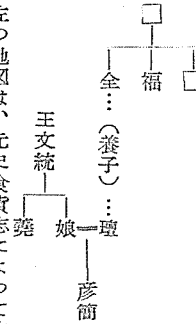
史学研究会

京都大学文学部内

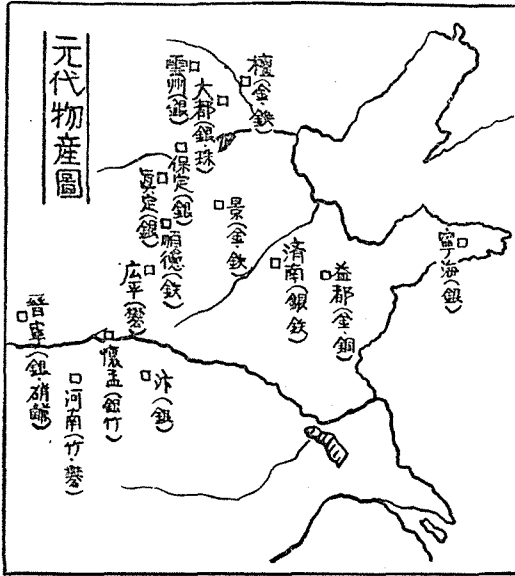
京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会
振替口座京都三二二八

蒙古統治下における漢人世侯（井ノ崎）

⑭ 李氏の系譜は左の通り。



⑮ 左の地図は、元史食貨志によつて作成したが其の産出量は不明である。



〔附記〕 佐伯助教から資料の誤謬等について多くの御教示を受けた。深く謝意を表します。

四八

昭和二十九年十月十五日

史学研究会理事 原 随 園

当会々則第七条、第十三条ならびに附則の規定にもとづき、左の通り会員総会を開催致しますから、何卒御出席下さい。

記

日時十一月二日（火）午後三時（予定）
場所 京大楽友会館（市電近衛通下車）

議題

- 一、会 務 報 告
 - 一、会 則 変 更
 - 一、評 議 員 改 選
- 会員 各位

〔おことわり〕 前号所掲の通り、十一月一日（月）奈良方面の見学を行います。バスの定員が五十名に限られておりますので、御希望の方は見学会費を添え、至急お申し込み下さい。見学会費は二百円と発表致しましたが、諸経費がかさみますので二百五十円と改めました。何卒事情御了察の上、既に二百円御納入の方は、追加会費をお送り下さるようお願い申し上げます。

リスとの紛争は決定的に解決したと」(Wynkoop, p. 50)。事実、当時の「Annual Register」には植民地のことはほとんど触れられていない。

(110) 植民地における景気の上昇——社会不安を緩和するべき原因——と第二回不輸入協定の崩壊とが機を一つしてゐることは注目してよい(より詳しくは C.W. Wright, Economic History of the United States, 1949, pp. 163—164 参照)。

(111) Mark, *ibid.*, pp. 158, 208—206.

(112) Natta's, *ibid.*, pp. 637—638.

(113) Miller, *ibid.*, pp. 304—306.

(114) Berek, Jr., *ibid.*, Chap. I.

(115) Berek, Jr., *ibid.*, p. 31.

(116) それゆえバルック二世は印紙条例やタウンゼンド条例に対するサンズ・オヴ・リバティの活動およびマクドローガル事件を、「革命史になにもをも附加するものでなく」「単なる小さい闘争であり……より大きな闘争にかくれて無意味なものになつてしまふ」とする(Berek, Jr. *ibid.*, p. 28 note)。マッカーやミラーなどと或る程度共通したニュアンスをもちながら、このようにいう以上は当然彼らとも見解を異にする(マッカーもミラー

も、革命戦争をそれ以前の反抗運動の集積として連続的に捉える)。要するにバルック二世は独立戦争の時期の研究に急であつて、それへの重要な序曲を等閑視しすぎた嫌いがある。

(附記) 印紙条例をめぐる騒擾については Helen M. and Edmund S. Morgan, "The Stamp Act Crisis" (1953) という近著があるが、本稿はそれ以前に作成され、筆者はまだ同著に接してゐない。いずれ示唆を得たいと思つてゐる。

なお本稿は昭和二十六年度文部省科学研究費の補助による研究成果を若干補つたものである。

史学研究会例会

日時 十二月四日(土)午後一時

場所 京都大学楽友会館(市電近衛通下車)

講師並に演題

両管における兵戸について

川 勝 義 雄 氏

賀茂社と賀茂郷

柴 田 実 氏

五、結 び

近世中国山村社会は鑪という鉄山業のマニファクチュアの経営に
より、かなりの程度に開拓開發されていた。従つて商品經濟、貨幣
經濟の滲透は、それが經濟外的要因もあつて地域的にはかなりのず
れがあるにはせよ、相当のものであつたと思われ。これに伴つて
階層分化も大であつて、一方では巨大なる土地所有者（鉄山経営に
よる）とともに他方株小作的な下人の存在を認めざるを得ないので
ある。

そして他に比して生産力に乏しい石見山村部にあつては、転落の
結果他に職を求めて欠落してゆく人々もかなりあつたであらう。江
川を過つて備後に抜け出て作州に向つての鑪職人の移動の跡を裏付
けることが出来るが、これは他の機会に発表したい。

然し乍ら鑪の経営はそれが鉱山企業であるだけにまた危険性を持
つていた。良質の原料と優秀な鑪職人に恵まれ、資本の豊かな鉄山
師にあつては、たとえ一、二の吹損があつたとしても、それをカザ
アトすることが出来たのであるが、小資本経営の場合は倒産するこ
とも多かつた。『代々農をもつて立つべく、子々孫々に至るまで鑪
には手を出すまじく候云々』という掬を持つ家がかなり多いのも石

鑪より見たる近世中国山村の社会經濟構造（庄司）

見部の特色である。倒産、破産の結果は転売や没落がそこに見られ
る。鑪の経営の史的考察は、やはりそこに小なる鉄山師が大なる鉄
山師へ吸収されて行く過程を教えて呉れる。

本稿は近世以降、石見国波佐村庄屋の鑪文書の年代的羅列に終つ
た感がないでもない。波佐村の宗門帳や壬申戸籍の分柝のなされて
いないことも遺憾である。稿を改めて三浦家の明治以降の土地所有
過程、農地改革の影響等とあわせ調べることによつて山村の社会構
造の現代的課題を探りたいと思う。

本論文は文部省科学研究費による研究の一部であることを附記し、
また貴重な所蔵文書の貸与を快諾していただいた三浦兼義、佐竹
周三兩氏に篤く御礼申上げる。

執 筆 者 紹 介

林屋辰三郎	立命館大学教授
井ノ崎隆興	京都大学大学院学生
今津晃	大阪大学助教授
庄司久幸	岡山大学助教授
河野通博	岡山大学講師
黒田俊雄	京都大学大学院特別研究生
岡部健彦	奈良女子大学講師

古美術の美しさ

それが手のとどかぬ遠くにあつても
自由に皆様のものにするのが
コロタイプ印刷です
「雲岡石窟」「慶陵」を再現したのも
弊社のコロタイプ印刷です

重要美術原本複製
学術図書出版印刷

真 陽 社
京都市下京区油小路綾小路下
電 話 (5) 1982番
中 村 友 吉

編 集 後 記

会員各位の御支援により、「史林」も本号をもつて第三七巻を完結すると共に、隔月刊への宿願を遅滞なく果すことができました。この隔月刊の方針を今後堅持して行く自信を得たことを喜ぶと共に、従来の編集の不手際と企画性の欠陥を深く反省しております。従つてこの反省の上に立つて、来年度におきましては各号にそれぞれの特色をもたせ、又「史林」のやうな総合的な学術誌のみが果しうる歴史学に共通の課題をとり上げ、史学・地理学・考古学の各分野から追究した成果をも示したいと期して努力して居ります。

毎号編集後記に記することながら、これらの計画を実現するために、会員諸兄姉の厳しい御批判と御鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

(金剛)

一九五四年十月十日 印刷
一九五四年十月十五日 発行

定価 百円

史 林 (第三七巻、六号)

発行所 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

振替大阪一四五五六番

印刷所 中村印刷株式会社

京都市下京区七条御所ノ内東町三九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXVII, NO. 6

Oct. 1954

CONTENTS

Articles:

- Sanjo (散所) : Its Origins and its
Development..... *T. Hayashiya* (1)
- The Chinese Lords (Shih-hou 世侯) under
the Mongolian Dynasty *T. Inosaki* (27)
- The so-called "Stamp Act Riots" (continued) *A. Imayu* (49)
— Chiefly from the vieupoint of considering the
American Revolution as a social movement —

Short Notice:

- Economic and Social Structure of a Mountain Village
of the Feudal Japan as seen from the
Development of Tatara (鑪)..... *H. Shoji* (81)

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan